

K九工大通信

YUTECH TIMES

VOL.52
2018.10.1
AUTUMN

KYUSHU INSTITUTE OF TECHNOLOGY



学び、成長し続ける6年間
グローバルエンジニア
養成コース (GE養成コース)



Voice of Graduate

大分工業高等専門学校
石川 秀大さん



Topics

THE
ランクインにみる九工大
THE世界大学ランキング
日本版2018



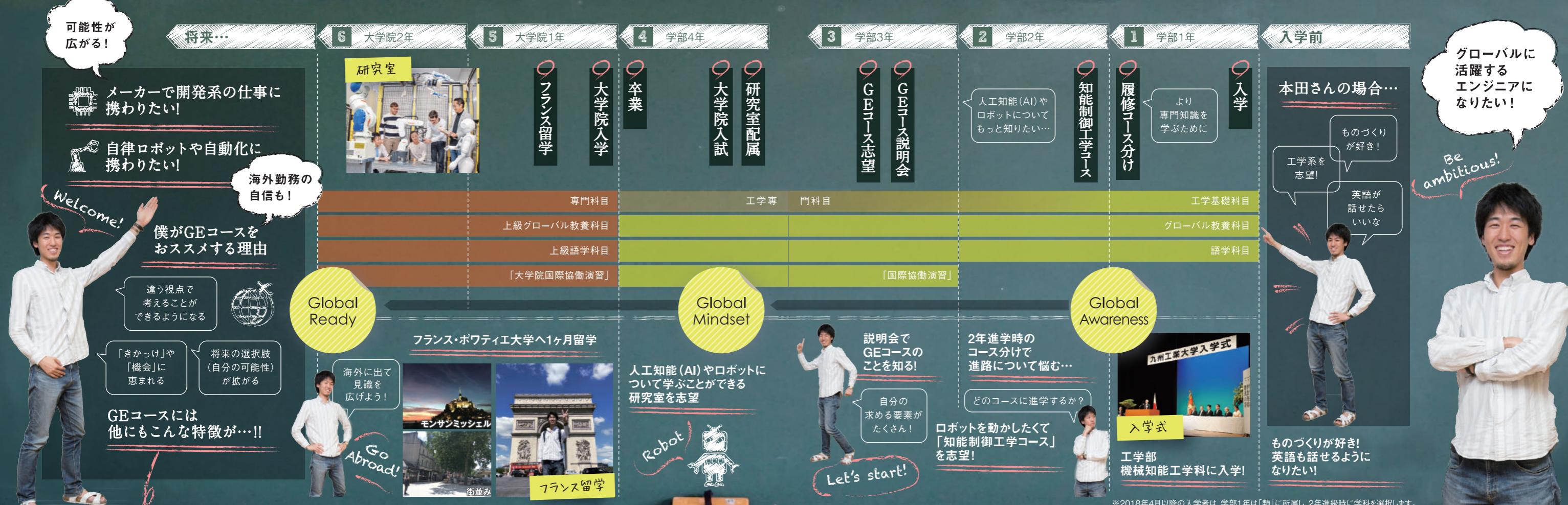
Career Design

「What's?
イコターンシップ」

学び、成長し続ける6年間

九工大では、世界で活躍するグローバルエンジニアを育てることを目標とした
6年一貫教育プログラムのグローバルエンジニア養成コース（GEコース）を設置しています。
GEコースを受講する学生に、コースの学びについて聞いてみました！

グローバルエンジニア 養成コース（GE養成コース）



※2018年4月以降の入学者は、学部1年は「類」に所属し、2年進級時に学科を選択します。

ABOUT GLOBAL ENGINEER COURSE

上級グローバル教養科目
「上級グローバル教養科目」で多様な文化について学ぶ！

上級グローバル教養科目

- 専門科目の学習だけでは得られない知識
 - 世界情勢、文化や歴史
 - 授業の構成も、調べる→レポート→発表という形で学びが深まる
 - 発展途上国への課題について学ぶ「技術者としての視点で考える」授業で、とても新鮮だった。
- 技術者としての考え方があつたかも？

「国際協働演習」はマレーシアからの留学生と共に学ぶグローバルな授業

マレーシアの留学生は、積極的に発言し、議論が活発！見習いたい！

国際協働演習

「国際協働演習」の授業では、マレーシアからの留学生と交流し、フィールドワークやディスカッションなどを共に行い、文化の違いを経験します。

GEコース修了要件

グローバル人材に必要なスキルが身につくよう下記全ての要件を修得します。

グローバル教養科目

語学科目

GCE専門科目

プロジェクト研究

GCE実践科目 ▶ 海外留学や協働学習

Study Abroad Work Abroad Research Abroad

上級グローバル教養科目

上級語学科目

TOEIC600点

WHAT'S THE GLOBAL ENGINEER?

九工大がすすめる「グローバルエンジニア」の育成

グローバルエンジニアに必要な能力

GCE (Global Competency for Engineer) Christian X Land

①多様な文化の受容

グローバル化が進む社会において、異なる慣習・言語・文化を持つ人々の多様な方に気づき、これに寛容な姿勢を持ちながら、共生・協働するための力

②コミュニケーション力

エンジニアとして、異文化コミュニケーションのスキルを用いて多様な文化背景を持つ人々と、母国語以外に英語等の言語も用いて協働することができる力

③自律的学習

グローバル社会の技術者に必要な情報を自ら率先して獲得し更新しながら学び続ける力

④課題発見・解決力

国際的な環境を含む様々な環境下において、諸要件を理解し、何が課題なのかを見極め、多様な意見をまとめながら最適な解決に導く力

⑤デザイン力

異なる価値観を持つ多国籍なチームにおいて、チームメンバーの意見を取り入れながら合意形成し、製品やシステムを開発する力



答えてくれたのは…

工学府博士前期課程
機械知能工学科専攻 1年
本田 空さん
Sora Honda

研究と野球の両立を志し教員の途へ



PROFILE

独立行政法人
国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校

情報工学科 助教

石川 秀大さん
Shudai Ishikawa

2010年 情報工学科生命情報工学科卒業。
2016年 大学院生命体工学研究科博士後期課程脳情報専攻修了。
大分工業高等専門学校 情報工学科 助教就任3年目。教鞭をとる傍、研究室では基礎アルゴリズムの開発に関する研究を行っている。また野球部の監督、寮務主事補などの多彩な業務を担当し、様々な視点からエンジニア育成に邁進する。

野球をすることが好き。甲子園出場経験を持ち、九工大でも硬式野球部に所属。現在も赴任先の大分工業高等専門学校にて野球部の監督を兼任されています。ユニークなキャリアを経てこられた石川さんに九工大での学び、現在の仕事や研究についてお話を伺いました。



Voice of Graduate

生物好きの少年から理系の高校球児へ
生まれ育った環境が自然に囲まれており、昆虫などを捕まえて育つからでしょつか「生物」に興味を持ち、自然と将来はこういったことを研究したいと考えるようになりました。その一方で野球にも熱中、強豪校の硬式野球部に入部し甲子園にも出場しました。この時期は、野球漬けの毎日で将来や進路について考える余裕はなく、高校3年の夏の大会が終わり、改めて進路を考えた際、やはり少年時代から興味のあった「生物」に関する研究を取り組みたいと考えました。大学を探していたちょうどその頃に父から九工大を薦められ、九工大について調べてみると自分が興味のあった遺伝子や細胞など生体に関わる内容を、さらに情報工学と融合させた学問分野があることを知り、俄然興味が湧き、情報工学科生命情報工学科を志望しました。

大学でも硬式野球部に所属、硬式野球部は戸畠キャンパスにしかなく、戸畠キャンバスの私は練習に参加しやすい戸畠に住み、授業のために飯塚に通うという相も変わらず野球中心の生活を選択していました(笑) 九工大野球部は恵まれた環境でもなく決して強いチームではありませんでしたが、そんなチームがいかに強豪校に対するかを常に考え、戦略や練習方法などを工夫を重ねました。

「戸畠での野球を中心とした学部生時代でしたが、解剖や実験

などの実地的な授業は好きで、導き出した数値や記号の配列を見てもは生命的根幹に触れるような「ワクワク感」を感じていました。転機となつたのは、学部3年生の夏の集中講義で受講した大学院生命体工学研究科の先生による講義でした。「脳型システム」という科目だったと思うのですが、人の脳の仕組みについて話しをしていたとき、脳の仕組みについては他の生物分野に比べ解明されていない部分が多く、挑戦意欲が掻き立てられ、大学院進学を意識するようになりました。

大学院に進学すると野球部は引退し、よつやく研究中心の生活へとシフト。朝早くから夜遅くまで研究室に籠もり、てんかんの発火源の位置推定に関する研究に没頭しました。国際学会で発表する機会もあり、研究面だけでなく文化や言葉、様々なことに大きな刺激を受け、企業に就職するのではなく、ぼんやりと考えていた大学等の研究者の道を歩む決心をしました。

「野球」と「研究」の両方ができる環境を求めて
しばらく野球から離れて将来を考えるにつれ「高校野球に関わる仕事」への願望も生じ、研究が出来て、高校野球の指導にも関わる

ことができる「高専」の教員職を目指すようになりました。高専の教員は、教壇に立ち講義を行うことがメインですが、そのほかの時間は各々研究活動を行います。私の場合はさらに、夕方からの野球部の指導や寮務主事補としての業務(寮の巡回や学生への指導)など、多岐に渡る業務を行っています。5年間(専攻科生は7年間)という長い時間、また幅広い年代の学生たちと共に過ごし、成長を目当たりに出来ることはやはり嬉しいです。将来を背負うエンジニアのタマゴを育てているという責任感は心地良いですし、自分が見た「甲子園の打席からの景色」を彼らにも味わわせてあげたいですね。私の野球を始めとする経験や人生で学んだことを現在の指導や研究に活かすことができ、自分が集大成のような仕事をだと感じています。

研究室の運営においては、生命体工学研究科に在学中にお世話になつた先生方の「厳しい」ご指導が本当に活かされていると感じます。本当に感謝しています。今でも九工大の多くの先生方にお世話になつております。今後も研究を含め様々な場面で連携していくたいと考えています。九工大は立地もよく特に戸畠キャンバスは小倉の繁華街からも近く、多くの学ぶ刺激を得られる環境だと思います。高専の指導教員として学生には、九工大への編入学も自信を持って薦めています(笑)

Another eye

インタビューが気になる!

石川さんの
ココに
着目!

ANOTHER EYE 1 野球に学ぶ

ANOTHER EYE 2 反骨精神

ANOTHER EYE 3 前例を覆す

野球強豪校出身の石川さんは、決して強いとは言えない九工大の野球部でも、諦めずに勝利をつかもうと、勝つために何をすべきか分析しました。強豪私大のプレイスタイルや規律から意識の差を学び取り、部員たちを鼓舞して勝機を得た経験は、現在の学校での勉強や部活での指導にも生きているといいます。

学生時代から自らの意見を持ち、上から頭ごなしに否定されることに反発心を抱くこともあった石川さんは、似たようなタイプの学生とも同じ目線で向かい合い、ロジカルに教えることで心を通わせられると感じています。あまり「教員」感はないのですが…という石川さんですが学生に慕われている様子が目に浮かびました。



INFORMATION

九工大
News

安川プロジェクトチーム『Hibikino-Musashi@Home』

世界大会RoboCupで2連覇!

同チームは、学生プロジェクトの中でも1チームのみ選出される「安川電機プロジェクト」に選ばれた団体で、帰国後、安川電機を訪問し、小笠原社長をはじめとした関係者へ優勝の報告を行い、来年の3連覇へ向け、決意を新たにしました。

『Hibikino-Musashi@Home』
(生命体工学研究科 田向権准教授)
は、平成30年6月 カナダで開催された世界最大の自律ロボット競技会『RoboCup2018』の生活支援ロボットをテーマとした@Homeリーグへ参戦、オックスフォード大や東大など名門校のチームが名を連ねる中、見事優勝、昨年に続く2連覇という快挙を成し遂げました。



九工大の取り組みをご紹介



写真左が坂本比呂志教授

-大学発ベンチャー表彰2018-

『科学技術振興機構理事長賞』を受賞!

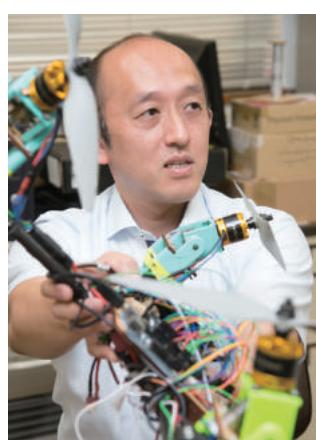
坂本教授はストームテクノロジ社と共同で新しいロスレスデータ圧縮技術の研究開発を行っており、筑波大学と共同で保有している特許技術を実用化し、パソコンやスマートフォンといった身近な電子機器から大規模なデータを扱う医療機器(MRIやCTなど)を始めとする産業用の大型機械などに利用することで、システムのコンパクト化、高速化、低電力化、医療の検査時間の短縮など多岐に渡る分野での貢献が期待されています。

情報工学研究院の坂本比呂志教授と筑波大学発ベンチャー「ストームテクノロジ社」が、科学技術振興機構(JST)と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が主催する『大学発ベンチャー表彰2018』において、「科学技術振興機構理事長賞」を受賞しました。

大竹 博准教授
大学院情報工学研究院
機械情報工学研究系生産システム部門

表彰より

大竹研究室／情報工学部 知的システム工学科



大竹研究室では、飛行ロボットと生体情報解析の研究を行っています。

飛行ロボットの研究分野は二つ。一つは羽ばたき飛行ロボットで、空を飛ぶ鳥の複雑な羽ばたき動作を取り入れることで、安全で高効率な飛行ロボットの実現を目指しています。鳥の羽ばたきは静かで人に恐怖心を与えないために人の身近で活動ができる、エネルギー効率がよくて長距離移動も可能です。

自律飛行制御システムの開発により、人から人へと直接物を運ぶことも可能になり、新たな運搬システムの構築が期待されます。

もう一つはドローンで、自律飛行制御とセンシング技術を応用し、林業や農業で活用できるドローンの研究を行っています。林業では、森林の中を自律飛行して森林資源を測る作業が可能で、林業従事者の負担を軽減することができます。

生体情報解析では、生体情報として脳波を計測し、その脳波で様々なデバイスを操作する研究を行っています。現在は車椅子を動かすことを試みていますが、医療や介護の現場だけでなく、通常生活での活用も視野に入れた脳波によるロボット操作を目指しています。

